

『薬王山法海寺義軌』の内容を要約すると、

「尾張州智多郡山階清水岡の薬師瑠璃光佛は春日大明神の作なりて、丈六等身の御体は應加玉ヲカタマノキ之木に稀代往昔の発気を尋ね奉る。往昔、新羅国明信王の太子道行法師という僧が、父明信王の命を受け、我が国に渡来して熱田社の宝剣を盗み逃げ去ろうとするも、事発覚し土牢に幽閉された。しかし、徳の高い僧であり、不動明王の火生三昧に入り、憤怒の相を現す。時の天智天皇の病の折、この異国の僧道行を幽閉した祟りであるとして土牢より出し、道行に加持法を修じさせた。道行が金剛蔵三昧に入り、真実清浄加持法を行じたところ、天皇の御悩みは忽ち御平癒された。道行も我が国の神霊の尊きを感じ、故国に帰るの念もなく、この地で終夜持念すれば、不思議の靈感によりて、春日明神が法海童子と化し、霊木を以て薬師如来の尊像を彫み、さらに蓬萊宝頂の薬王壺を掌の上に持つ、これ即ち当山のご本尊なり。春日明神とは春日第二の御殿香取大明神であり、本地は薬師瑠璃光佛如来なり。また、再び当山御本尊御祈願により天智天皇御悩御平癒ありて、勅使二丸卿及び鎌足大臣の御孫未虎臣を遣わし、薬王山法海寺と号し、山階庄を寺本、清水岡を平井と名づけ田園畑岡併せて二百八十町を賜った。之れ実に天智天皇即位七年（六六八）戊辰八月三日にして当山の創立せし吉日なり。開基は道行法師、その後、開山勤〔勅カ〕尊和尚（九年住職）、二代勤〔勅カ〕操和尚（十三年住職）、三代弘法太師（十年住職）が祈念を修せられたり。当山は、天智・天武・持統・文武・元明・聖武・孝謙・淡路廢帝・称徳・桓武・平城・嵯峨・淳和の十三代の勅願寺たり。」

などと記述されている。

（注）奈良大学 加藤秀人著「尾張國智多郡の古代寺院についての一考察」より引用